

グループホーム大浜

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成25年11月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3473900599		
法人名	社会福祉法人 成寿会		
事業所名	グループホーム大浜		
所在地	広島県呉市豊浜町大字大浜字深田482-1		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhvou_detail_2012_022_unei=true&JiqvosyoCd=3473900599-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で利用者の意思及び人格を尊重し、家庭の延長として、その人らしい安心した生活ができるよう支援している。
利用者の体調管理及び下肢筋力をつけるため、立位訓練、散歩、体操等を取り入れている。天候の良い時には1対1で散歩に出かけ、会話をするようにしている。
季節行事としてお正月、桜の木の下でのお花見、夏祭り、そうめん流し、成寿園まつり、焼き芋大会、クリスマス、餅つき等をして利用者に喜んでいただけるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム大浜は、旧小学校跡を利用して、地域の方が学び育った思い出が一杯詰まった施設です。施設の周りには、レモン畑やミカン畑が生活道に沿って植わっていて、自然一杯の環境の中で地域の方と交流しながら生活しています。職員との面談時に事業所の職員から対応の方法やアドバイスを求められたり、アドバイスに対して現状での対応の可否を判断し「本日から取り組みたい」とのコメントがあるなど、職員の職務に対するモチベーションは非常に高く良好です。研修意欲も旺盛で事業所からの許可があれば、外部研修に参加し技術や知識を高め、利用者のケアに役立てたいと思われています。利用者の家族に対して事業所での行事や生活の様子を写真で紹介し、写真と広報誌・コメント等を家族に配布し家族の方も施設での様子が良く分かったと好評です。

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>理念は大きく書き出し、常に職員の目に届く所に表示している。朝礼時、職員全員で唱和している。</p>	<p>地域密着型サービスの意義を踏まえ地域の人々に認知されるように「利用者の意思及び人格を尊重し家庭の延長としてその人らしい安心した生活が出来るよう支援します」を事業所独自の理念として掲げ、管理者・職員は、その理念を共有し朝礼時に唱和し実践につなげています。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>地域の祭りには参加、見学している。当園に幼稚園児が定期的に訪問してくれる。</p>	<p>自治会に入っていて地域の行事に出来る限り参加しています。地域の行事(弓射祭・豊島祭・大浜大祭・はなまつり)への参加をしています。近隣の幼稚園の訪問があったり、おふくろ喫茶にて地域の方と会話し交流しています。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>常に開放し、自由に見学できるようにしている。地元の診療所への受診により、支援への理解に繋がっている。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2カ月に1回の割合で実施している。地域から当園についての要望等も伺い、それに沿うよう心がけている。</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月に1回の割合で開催され、自治会長・民生委員・呉市介護保険課・包括支援センター・地域相談センター・家族代表・施設長・管理者・職員等が参加し、行事・支援経過・事故報告等報告している。又地域の状況等も話し合わせそこでの提案・意見等がサービス向上に活かされています。</p>	
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に参加して頂き、相互に連絡し合っている。</p>	<p>申請手続き時や報告、相談の機会のほか、介護サービス事業者連絡会などの機会に市担当者とのコミュニケーションを図り良好な関係を築くように取り組んでいます。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。但し、安全上必要な場合は家族の同意を得ている。</p>	<p>身体拘束については、研修を行い管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>事業所研修で学び、日常の介護業務の中で些細なことは、声かけ、態度に注意を払い虐待防止に心がけている。</p>		

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内の研修会で学習している。家族から相談があれば対応します。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前に当園に見学され理解して頂いている。また、ご家族に来園、面会時を利用して、苦情・疑問がないかをお尋ねしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活の中で常に利用者の声に耳を傾けカンファレンスや日々の申し送りで意見交換を行っている。	利用者とは日頃の関わりの中で、家族については面会時や電話・運営推進会議の時に、意見・要望を聞き取っています。その意見や要望は施設長・管理者・職員間で話し合い運営に反映しています。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の業務や申し送りの中で意見を聞き、改善するようにしている。 職員用の意見箱を玄関に設置している。	職員からのケアに関する意見・提案等は、日々の会話の中とミーティング等で取り上げ本部の会議で話し合わせ全職員が共有しケアに反映しています。	外部研修に参加する機会が少ない様なので、今後大いに技術と知識の向上のために参加されることを期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月に1度理事長視察があり要望を聞いている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人研修や法人外の研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人の事業所とは頻りに交流しているが、他法人の事業所とは交流できていない。		

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>契約時には丁寧に説明を行い、入所当初は十分に声をかけ合い少しでも早く慣れて頂けるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前にご家族と連絡を取り、当グループホームへのご希望等をお訊きしている。 入所後は24時間経過した様子を電話して、ご家族の不安をとるようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>当グループホームのみならず特養、老健の入所も視野に入れて本人に適したサービス、家族からの要望も取り入れるようにしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>常に傾聴し、人生の先輩としてアドバイスを受け日常生活の中で取り組んでいる。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の意見をよく伺って、それに添って日常の声かけや生活を行うよう心がけている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>島内の方は受診時に馴染みの方との言葉かけ、島外の方は面会時、ドライブを兼ねて外出、近くの散歩を一緒にお勧めしている。</p>	<p>近隣の友人や知人の面会や手紙のやり取りや電話の取り次ぎ、家族の協力を得ての地元でのお祭りへの参加等利用者がこれまで大切にしてきた関係が途切れないように支援されています。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>共同生活の中で本人の意思を尊重し、利用者同士の交流を図る支援を行っている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>連絡があれば、相談に応じている。</p>		

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	プラン立案時、必ず本人の意見を聞き、プランに反映させている。	職員は利用者の個人情報から生活歴を把握すると共に、日々の係わりの中で表情やしぐさを観察しながら意向の把握に努めています。意思疎通が困難な利用者の場合は家族等の来訪時に話を聞いたり職員で話し合い、利用者本位に検討しています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、在宅時のケアマネや入所前の施設のケアマネ等との連携をとり、本人の生活歴を把握し、アセスメントの、充実を図っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々、利用者の発する言葉、行動、心身状態等を記入し、職員間で、情報の共有を行っている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	申し送りや、ケアカンファレンスで、意見を求め、現状に即したプランを作成している。	介護計画は、毎日の介護記録を参考に管理者・職員で話し合って作成しています。モニタリングを実施し3ヶ月ごとにケアプランを見直すと共に家族等から意見を聞き説明し、同意を得ています。利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直ししています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース、日誌に毎日記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム、老健、ショートステイ、特養等、家族と本人の希望に添った支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会長・民生委員の方から情報を頂いたりして、地域の行事に参加している。地域の幼稚園の訪問をうけて、利用者とのふれ合いの場を持っている。火災訓練には消防署と連携し、指導等をうけている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族と本人に相談して、かかりつけ医や、専門医を設定している。	入居時に利用者・家族の希望に応じてかかりつけ医は選択でき職員と家族で受診の支援をしています。受診結果は家族に電話で報告すると共に家族が付き添われた場合は状況を報告して頂き、全職員で共有している。複数の協力医療機関と連携し、平日と休日に適切な対応が出来るように支援している。	

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	隣接している老健の看護師や、訪問診療を受けているかかりつけ医の看護師や受診に行っているかかりつけ医の看護師等にアドバイスを受けたり、相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時、ターミナルケアを行なわないこと、重篤化した時の支援について説明している。	重度化・終末期に向けての方針・グループホームで対応できる支援について、契約時に説明しご家族の意向を把握しています。重度化に向かう段階でその都度ご家族の意向を確認し、主治医を交えて話し合いを重ね経過記録に記録し支援しています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	機会教育を実施しているが、定期的にはおこなっていない。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練をしている。朝礼時に火災発報時の対処要領を、唱和している。	週3回の火災発報のマニュアルの唱和を行い実践に備えている。年2回の昼夜を想定した訓練を隣接の老健と合同で避難訓練を実施しています。また、非常時には、老健からの応援体制も整備されています。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけ、対応に不適切なことがあれば、その場で注意している。記録は関係者以外には、公表していない。	利用者の個々の生活歴や家族からの情報も基に好きな事や嫌いな事を把握しています。又介護に対する要望・願い事などを把握し職員間で利用者が中心となり誇りやプライバシーを損ねない様に対応をしています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話の中から、思いや、希望を聞きだしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人のペースに合わせて、リズム正しい生活ができるように 支援している。		

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣服の選択も本人の希望を聞いて着用して頂くようにしている。本人の希望があれば美容院を利用したりするようにしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備・後片付け等を一緒に行っている。	職員は、利用者の好みを把握し食べやすさにも配慮し楽しく食事を作っています。利用者も手伝いのできる人は、食事の準備で干切りやみじん切りにしたりと手伝いをされています。利用者の方の当番表を作成し食器洗いや片付けを当番制にして「自分が当番だからしないとイケない」ということが生きがいになっています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量のチェックで食欲を測り、低下している方にはかかりつけ医に相談し、栄養補助を検討したり、嚥下困難な方にはトロメリン対応やミキサー食・ゼリー・粥対応等を施行して、水分補給には充分気をつけるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアが自力で出来る方は、自分で義歯を外して洗って頂き、出来ない方は職員が介助する。夜間のみ義歯を預かり洗浄剤に浸けておくようにし、起床時に装着するようにしている。自歯の方で受診が困難な場合は、月に一度口腔ケアの往診を受けるようにしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	快適に過ごして頂けるように、可能な限り布パンツに切り替えが出来るようにしている。	排泄の頻度・傾向を見ながら、職員間で話し合い個人のリズムによってトイレ誘導し習慣に合わせた自立への支援をしています。タイミングの良い声掛けにより失敗を減らすことで利用者の自信にもつながり、紙オムツ使用から布下着に変わった利用者もいます。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、排便状況を確認し、水分補給と散歩・運動等に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴表で曜日や時間帯の変更は出来るが、職員体制上、夜間は難しい。	週3回が基本の入浴ですが、利用者の希望回数や時間帯・曜日を尊重して入浴の支援をしています。入浴が無理な場合は週2回とシャワー浴・清拭にて清潔を保つようにしています。希望があれば同性介助を行なっています。拒否傾向のある人には声掛けや、職員間で意見交換して入浴して頂ける様に工夫しています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	テレビを視たり、ソファで寛いで頂いたりしている。また、エアコンや寝衣の調整で安眠しやすい環境づくりに心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録や申し送りにより職員に周知している。不明の場合は薬処方箋で確認するようにしている。服薬確認時や日々の様子観察で症状の変化に気をつけるようにしている。		

グループホーム大浜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月、季節行事を取り入れたり、利用者個々の能力を生かして手伝いをして戴く。(調理、洗い物、テーブル拭き、食器拭き、拭き掃除の手伝い等)		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調と天候の許す限り、散歩は日課としている。希望があれば近くのJAに買い物に出かけたりしている。	日常的に徒歩や車椅子で近隣へ散歩しています。散歩の途中にミカン畑で作業されている地元の方と挨拶を交わし雑談したり、ミカンを頂いたりして交流しています。又個々の能力に応じて海への散歩やドライブで島めぐりをしています。県民の浜で食事をしたり一緒になった他事業所とも交流しています。施設の畑で野菜作りをしており畑作り、水やり・草抜き・苗植え等行い施設内に閉じこもらないように支援しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理は職員がしているが、買い物ツアーを行い、買い物をする機会を作っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自ら手紙を書かれる方は限られているが、郵便ポストへの投函にその方と同行していくようにしている。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に障子を貼り、柔らかな光で入居者を和ませている。また、お花を活けるのが好きな入居者に草花を活けて頂き、季節感を感じることが出来るように工夫している。	居間では、ソファでくつろいだり椅子に腰かけ利用者同士または職員も加わり談笑しています。通路が広くゆったり作られており、ソファが置かれていて利用者同士がくつろがれたり家族が訪問された時語り合う場所として活用しています。採光も良く山々やミカン畑や野菜畑が眺められ、居室以外でも利用者が落ち着いて居心地よく過ごせるように工夫しています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアーや食堂にソファを置き、各自で寛いで頂ける空間を創っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	希望の方には馴染みの家具を持ち込みして頂いたり、思い出の 写真や自分で作った陶芸作品を飾って頂いたりしている。	居室には、写真・人形・子供たちが手作りで作成したメダル・家庭で使われていたタンス・本等が個々の好みや習慣に合わせた物が自由に持ち込まれています。又季節の鉢植えの花を持ち込まれて楽しまれています。利用者が居心地よく過ごせるように、家族と相談しながら好みの物を持ち込まれています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物はバリアフリーとし、廊下・トイレ・浴室等には手すりを設置している。トイレは大きく表示し、居室には大きな名札と顔写真を表示している。居室の位置が分からない方の部屋のドアに マスコットの人形を目印にしたりして工夫している。		

グループホーム大浜

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいの 利用者の3分の1くらいの ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム大浜

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム大浜

作成日 平成25年11月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	利用者への声かけ、家族等の対応に職員により差がある	職員の資質向上を図り、より一層家族的な温かい支援をする	内外の研修に参加する機会を多く取り入れる	1年
2	2	地域密着型の事業所として地域との交流が少ない	利用者と地域の方が馴染みの関係になれるように、地域との交流をふやして行く	地域交流として、好評となっている“おふくる喫茶”を継続して開催し、地域の川掃除・公園のクリーン作戦に参加する	1年
3	34	応急手当や初期対応の訓練を全ての職員に行っていない	全ての職員が、応急手当や初期対応を行えるようにする	全ての職員にAEDの講習を実施する	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。